



16日にあった地域協働学習オンラインセミナー。取り組みを紹介する上野小の田崎香織教諭

認定地域での学びを発信

世界農業遺産 高千穂郷の教職員ら オンラインでセミナー

世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域活性化協議会（会長・甲斐宗之高千穂町長）は、認定地域高千穂、日之影、五ヶ瀬町、

諸塚、椎葉村）ならではの学びを紹介する地域協働学習オンラインセミナーを開いている。

域の、大きな挑戦」と題した5回シリーズで、昨年10月から月1回、オンライン会議システムで配信。認定地域内にある小

中高校の教職員や子どもたちが各校での取り組みを発信している。

16日にあった第4回のセミナーには、県内の教職員や児童生徒ら約100人が参加。高千穂町上野小学校の田崎香織教諭が「世界農業遺産高千穂郷・椎葉山地域における『ゆたかさ』について」と題して発表した。

「ふるさとに誇りを持ち、将来、ふるさとに貢献できる子どもたちを育てたい」と言う田崎教諭。子どもたちにあることの「ゆたかさ」を気付かせ、ため、県などが作成し

最終回は来月20日

最終第5回のセミナーは2月20日午後2〜4時に予定。椎葉村地域おこし協力隊OGで合同会社UIキャストの天野朋美さん、椎葉中学校の有田勝則校長らが発表する。

た「ゆたかさ指標」を教材として活用していることを紹介した。

また、併設する上野中、高千穂高、JA高千穂地区、林業グループなどの団体と連携した学習を実践していることにも触れ、「ジナス（世界農業遺産）」というテーマがあることで小中高がつながり、さまざまな学びが点から線になっている」と成果を強調した。

この日はオンラインによるパネルディスカッションもあり、上野小の6年生、上野中の1、2年生、高千穂高の2年生合わせて16人が参加。「やっぱり高千穂はすごい」「高千穂は自然が豊かで人が優しい」「高千穂のことをもっと発信したい」などと学習を通して感じたことを発表した。

教育や世界農業遺産を活用した取り組みに興味がある人であれば誰でも参加できる。無料。希望者は同協議会のホームページから事前の申し込みが必要。問い合わせは同協議会（☎高千穂73・1200）。



2027年国スポ・障スポに向け、大会の基本デザインをPRする「みやざき犬」(19日、県庁)

神話モチーフ 国スポデザイン

マスコット みやざき犬がPR

県は19日、2027年に開催予定の第81回国民スポーツ大会・第26回全国障害者スポーツ大会のマスコットキャラクターなどの基本デザインを発表した。

愛称・スローガンには、神話の国・宮崎をテーマに、神々が降り立った山々や勾玉(まがたま)、雲などの神話をモチーフにしたデザインを取り入れた。

河野知事は「みやざき犬も今は巣ごもり状態だが、先を見据えた準備も大切。一定の収束が見られれば、6年後に向け、デザインなどをフル活用し、機運の醸成を図りたい」と述べた。

知事が19日の定例会見で、愛称「日本のひなた宮崎国スポ・障スポ」スローガン「紡ぐ